

## J S Q C 規格の開発・制定に関する提案書

規格の名称	品質管理用語
規格の種類	○ 1. 規格 (JSQC-Std)      2. テクニカルレポート (JSQC-TR)
規格の適用範囲	品質管理で用いる主な用語を定義する。
規格の利用者	J S Q C 会員を含め、品質管理の実践・教育に携わるあらゆる組織・人。
制定のねらい	<p>品質管理は、1950年代に米国より導入されたが、それ以降、日本の風土・文化に根ざした独自の発展をしてきた。他方、取引のグローバル化を背景に、欧米流の品質管理をベースにした国際規格ISO 9000シリーズが1987年に制定され、日本の品質管理に少なからぬ影響を与えてきた。ISO 9000シリーズのJIS化に伴い、旧JIS Z 8101 (品質管理用語) から統計用語以外の部分の定義が廃止されたこともその一つである。ISO 9000シリーズの普及とともにサービス業やソフトウェア産業など、従来あまり品質管理に興味を持っていなかった多くの企業・組織が品質管理に取り組むようになってきたのは大変良いことであるが、反面、ISO 9000シリーズとともに導入された用語・概念が従来の日本の品質管理の用語・概念と必ずしも整合するものでなかったために、品質管理に熱心に取り組んできた製造業において不要な混乱を生み出したことも事実である。</p> <p>用語の定義や解釈は、その領域の研究・実践・応用の根幹を成すものであり、それを使用する組織・人の風土・文化に合ったものであることが欠かせない。品質管理に関わる概念を理解する上で重要となる用語ひとつひとつに対して、身近でわかりやすい、製造産業・ソフトウェア産業・サービス産業などの様々な分野で広く活用できる、しかも国際規格と整合する定義を与えることは、より多くの組織・人が品質管理に取り組む素地をはぐくむ上で重要である。</p>
制定によって期待される効果	<p>(1) 品質管理に関する用語・概念がわかりやすいものとなり、品質管理の普及が容易になる。</p> <p>(2) 従来にない分野・問題へ品質管理を適用する上で必要となる新たな方法論の研究・議論を行うための基盤を構築できる。</p>
制定によって影響を受けると思われる組織・人	<p>(1) ISO 9000シリーズの制定およびそれを用いた認証制度を運用・活用している組織</p> <p>(2) 関連するISO規格/JIS規格 (JIS Z 8101など) を制定・活用している組織</p>
制定までのおおよそのスケジュール	<p>(1) 2011年6月末      作業原案の作成</p> <p>(2) 2011年7月～9月   審議委員会による審議とパブリックコメントの募集</p> <p>(3) 2011年10月      規格の発行</p>
原案作成に当たって参考となる資料	<p>(1) 日本品質管理学会標準委員会編、「日本の品質を論ずるための品質管理用語 85」, 日本規格協会, 2009</p> <p>(2) 日本品質管理学会標準委員会編、「日本の品質を論ずるための品質管理用語 Part 2」, 日本規格協会, 2011</p>
提案委員会・研究会・部会名	標準委員会 委員長 中條武志